

## 自負

私たちは『陽気で快活、合理主義でクール』などと評される県民性だそうです。外部評価を受けるのも楽しいものですが、自己評価はどうなっているのでしょうか？弊社ヒューマンネットワークグループが毎年発行している『新卒就活レポート』の中から、自負と労働について、ピンサイトモニターの皆さんにも同じ質問をしてみました。

### 自負していること

最も自負しているのは「自分の意思で行動する主体性」26.6%。

次いで「周囲と協力しながら物事に取り組む力」24.4%、「他人の話を丁寧に聞く力」21.6%、「規則・規律を守る力」21.6%。

自負が高いのは20代、低いのは40代。50代以上はタフな自己評価像。

「主体的で協調性があり、相手の話をよく聞き、規律を尊重する」という自己評価となりました。完成された人物像です。「自我は強いものの、慎重に周囲を観察し、はみ出す行動はしない」ともいえるでしょうか。

### 自信がないこと

自信がないのは「自分の意見を分かりやすく伝える発信力」、「指導・助言に素直に従う力」、「意見や利害の対立を理解する柔軟性」。

主体性はあるのに発信力に自信がない、という結果です。“岡山県はアピール不足”といわれる所以はこんなところにもあるのかもしれませんが、また、他人の話を丁寧に聞くわりには指導・助言に素直に従わない、という結果ともなっています。実は静かに聞いているだけ...ということでしょうか？「規則・規律を守る力」があるので、“行儀だけは良い”なんてことが、しかしながら行儀・マナーが良いのはとても良いことです。

### 社会人と学生の違い

学生は社会人よりも自負が高い。

学生の2人に1人「周囲と協力しながら物事に取り組む力」に自信。

社会人は土壇場力に自信有り。

学生から社会人になると全体として自負は弱まるものの、強まっていく自負もあり、成長あるいは変化をしています。

### 働く目的

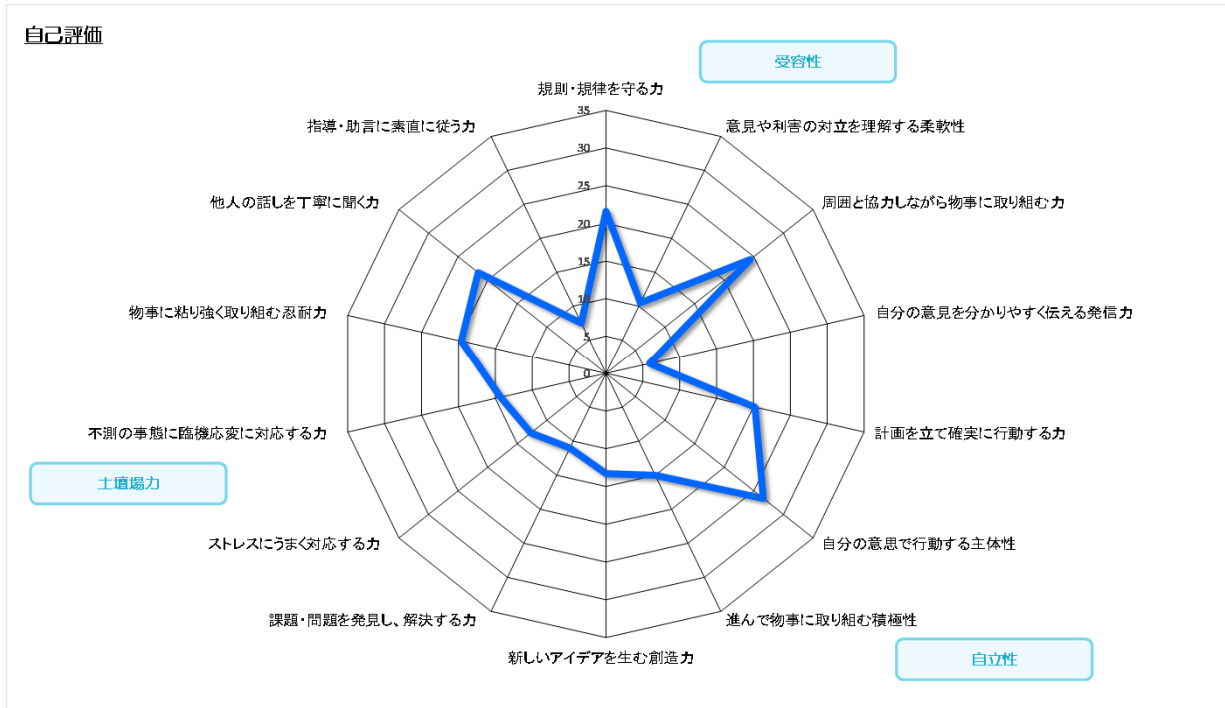
男性が女性を大きく上回るのは「社会に貢献するため」。

女性が男性を大きく上回るのは「お金を得るため」「社会と繋がっておくため」。

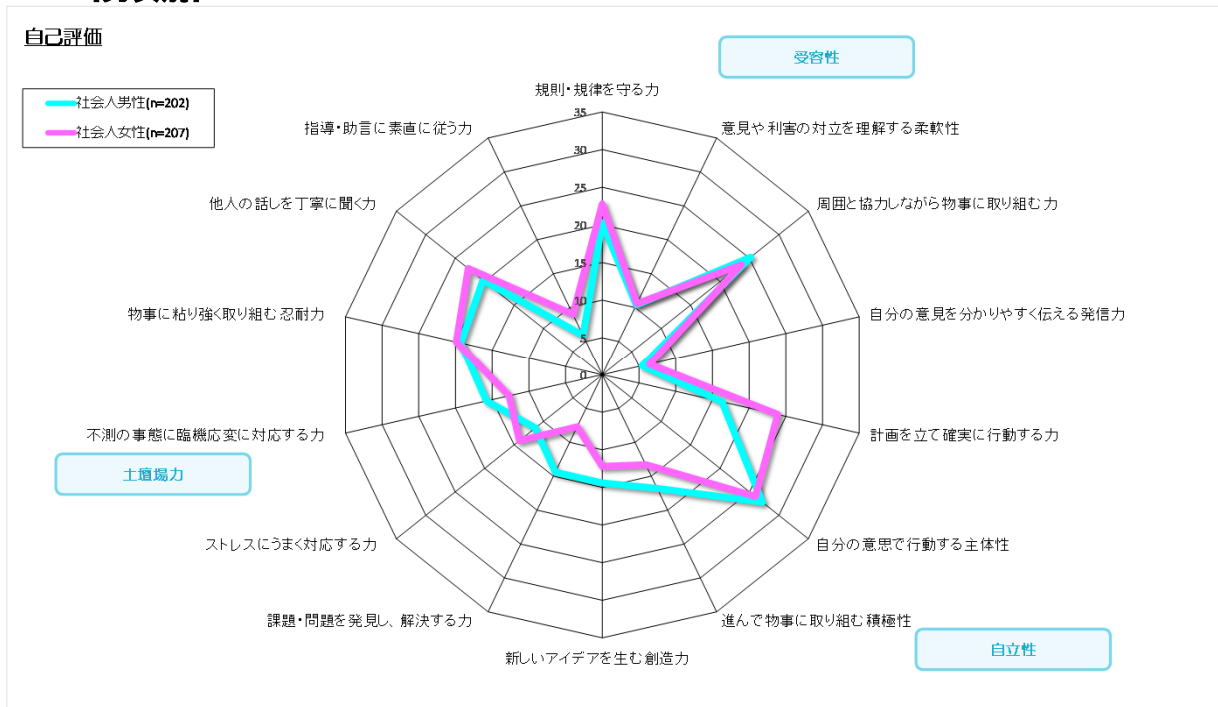
岡山県民は社会に出て、より自由になる。

調査概要	調査時期	2013年6月4日(火)～2013年6月10日(月)
	調査対象	岡山県在住の男女409名(学生除く)
	調査方法	自社アンケートパネル『Vinsight(ピンサイト)』によるインターネット調査
	回答者プロフィール	男性49.3%、女性50.7%
		20代8.7%、30代32.2%、40代31.8%、50代以上27.3%
		岡山市54.2%、倉敷市22.5%、その他の市町村23.3%

あなたが自負する能力は何ですか？(上位3つまで) 仕事、家庭、プライベート等々、シチュエーションは問いません。

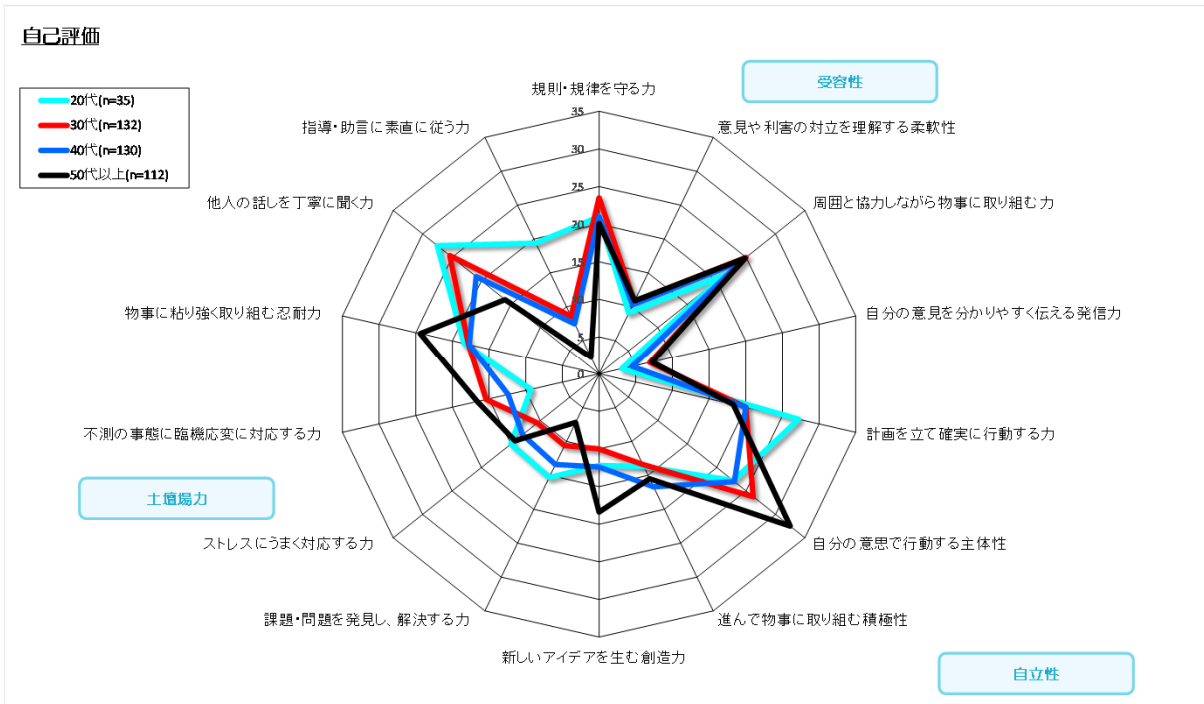


【男女別】



男女別を見ると、大きさも形もよく似ています。5ポイント以上の差が出たのは2項目のみで、男性のほうが高いのが「課題・問題を発見し、解決する力」、女性のほうが高いのが「計画を立て確実に行動する力」。男性は改善意欲が高く、女性は計画性が高いようです。男性は変化を好み、女性は約束を好むという見方もできます。

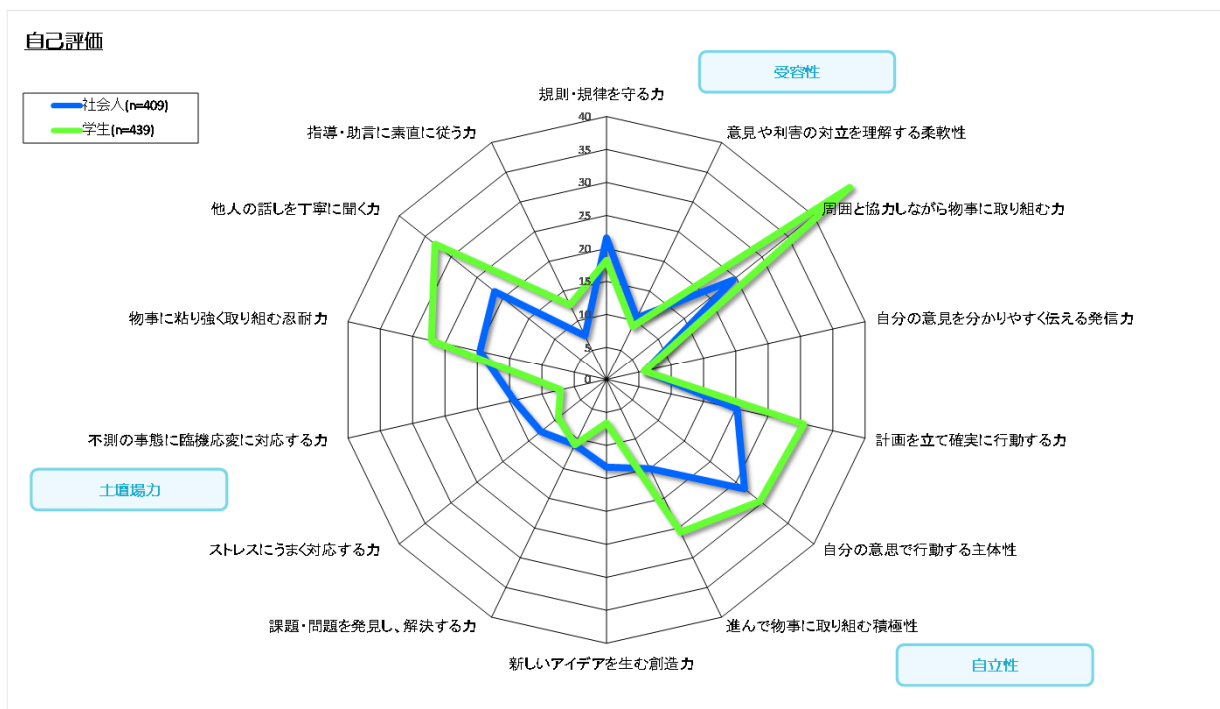
## 【年代別】



年代別を見ると、40代が面積がやや小さく、50代以上が偏りが大きくなっています。

そして、年代が上がる毎にポイントが下がっていく項目がありました。「他人の話を丁寧に聞く力」「指導・助言に素直に従う力」の2項目です。言わずもななかもしれませんが。

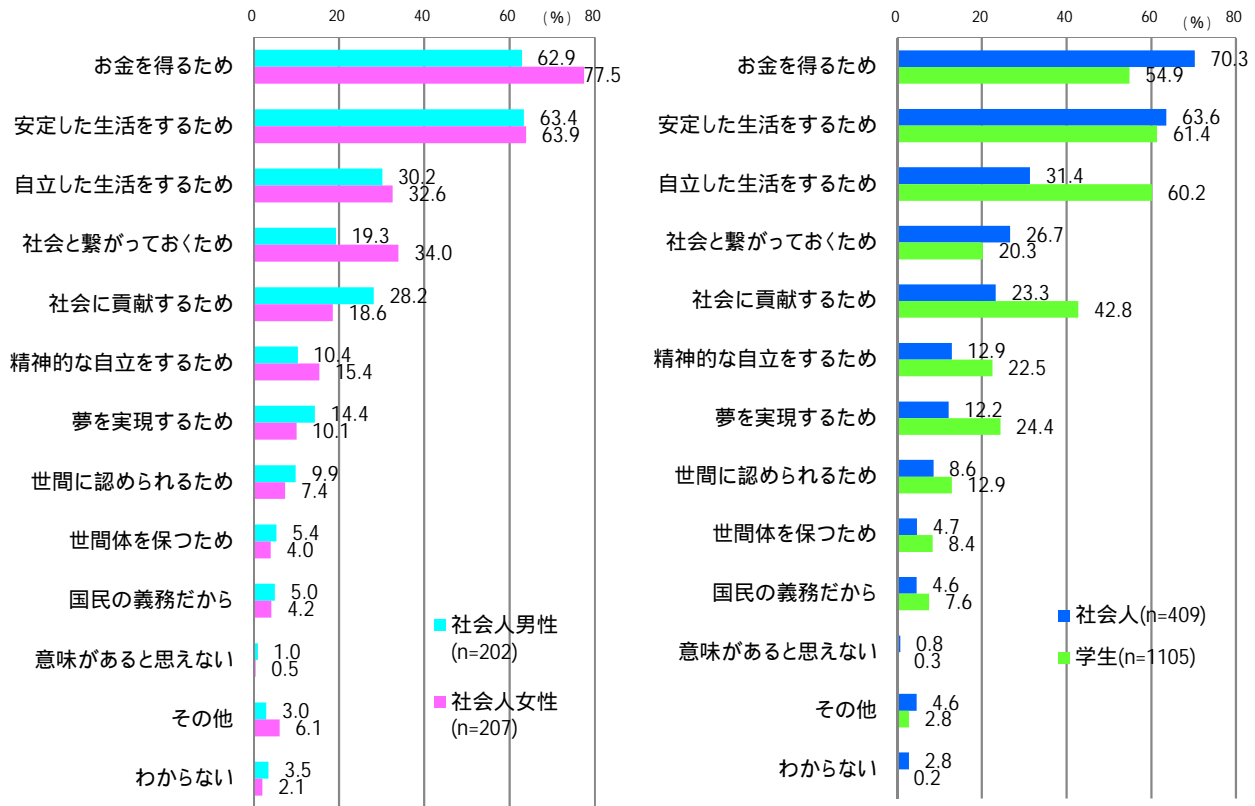
対して、年代差がほとんど見られなかったのは「規則・規律を守る力」「意見や利害の対立を理解する柔軟性」「周囲と協力しながら物事に取り組む力」の3項目です。「協調性がない」と評されることが多い岡山県民ですが、4人に1人は協調する意識を持っています。…他県はもっと多い？



社会人と学生を比べてみました。性、年代よりも大きな違いが見られます。面積は小さいものの偏りが少ないのは社会人です。

社会人は14項目中7項目が学生を上回り、上回り幅が大きいのは順に「不測の事態に臨機応変に対応する力」「新しいアイデアを生む創造力」「ストレスにうまく対応する力」などとなっています。いざというとき、不利な状況でも力が発揮できる、発想できる、心理的限界を取り払うことができるといった土壇場力に自信があるようです。経験を積んでいる証かもしれません。

## あなたにとって「働く」ことの目的や意味は何ですか？(いくつでも)



社会人男女を見ると、女性が男性を大きく上回っているのが「お金を得るため」「社会と繋がっておくため」。男性が女性を大きく上回っているのは「社会に貢献するため」。この3項目において明確な男女差が見られます。男女共に労働を公的なものと捉えています。男性はより公的意識が強く、女性は男性よりも現実的・私的な捉え方をしています。

社会人と学生ではさらに大きな違いが見られます。学生は労働に対し、社会人よりも多くの目的や意味を感じています。中でも社会人を大きく上回っている「自立した生活をするため」「社会に貢献するため」からは、素直に社会とコネクトしようとする健全さを感じられます。また、「夢を実現するため」も大きく上回っており、若者の心の鮮やかさが見えてきます。

社会人と学生の差が大きいということは、社会人経験を重ねるにつれ、労働の目的や意味は次第に薄れていくものともいえます。労働はごく当たり前の日常生活の一部として溶け込んでいくのでしょうか。世間体や義務感が薄れているところからも自然体な様子が見て取れ、必要以上に気負わない、自由な大人の姿がうかがえました。

学生データ：自社調査「就活レポート2014」より出典

この件に関するお問い合わせ先  
 協同組合岡山情報文化研究所 / 原内  
 〒700-0824 岡山市北区内山下1-3-1  
 電話:086-225-8181

<http://www.vis-a-vis.co.jp/bunka/data/contact/>